

# 今日の一問 (やまだ塾)

(2008年8月26日掲載)

No.70	「精神保健医療体制」および「精神障害に対する国民の理解の深化(普及啓発)」の現状について述べよ。				
解答	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="355 651 515 1417">【1】精神保健医療体制の現状</td> <td data-bbox="515 651 1361 1417"> <p>①精神病床数は、1998年以降、減少傾向が続いているが、ほぼ横ばいとなっている。病院類型で見ると、特に、一般病院での減少が著しく、1998年と比べると6千床近く減少している。精神科病院では、横ばいとなっている。</p> <p>一方で、諸外国では(各国における精神病床の定義の違いを考慮する必要があるが)、1960年代以降、一様に病床削減や地域生活支援体制の強化等の施策を通じて人口当たり病床数を減少させてきている。</p> <p>②精神科または神経科を標榜する診療所数の推移をみると、一般診療所数も近年増加の一途をたどっているが、精神科または神経科を標榜する診療所の増加はそれを大きく上回る勢いで増加しており、1996年から2005年までの間で、ほぼ1.5倍に増加している。</p> <p>③精神科医は、全体として増加傾向にあるが、精神科または神経科を標榜する診療所数の増加の影響もあって、診療所に勤務する精神科医も増加が顕著である。1994年と2006年の比較で見ると、病院に勤務する精神科医の増加が15%であるが、診療所に勤務する精神科医は2.3倍に増加している。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="355 1417 515 1986">【2】国民の理解の深化(普及啓発)の現状</td> <td data-bbox="515 1417 1361 1986"> <p>①「精神保健医療福祉の改革ビジョン」においては、「精神疾患は生活習慣病と同じく誰もがかかりうる病気であることについての認知度を90%以上とする」という達成目標を掲げているが、2006年度時点では、「精神疾患は誰もがかりうる病気である」との質問に対し、「そう思う」と答えた者の割合が50%弱、「ややそう思う」と答えた者を合わせると約82%に上っており、ビジョンに掲げた目標の達成に向け一定の進捗がみられている。一方で、精神疾患に関する国民の理解について、疾患毎にその理解の状況を見ると、うつ病等他の疾患に比べて、統合失調症に対する理解が大きく遅れている。</p> <p>②また、2007年の内閣府調査によると、「精神障害者の近隣への転居」について、ドイツやアメリカでは、7割以上が「意識せず接する」と回答し、4割は「全く意識せず気軽に接する」と回答しているのに対し、日本では、7割以上が「意識</p> </td> </tr> </table>	【1】精神保健医療体制の現状	<p>①精神病床数は、1998年以降、減少傾向が続いているが、ほぼ横ばいとなっている。病院類型で見ると、特に、一般病院での減少が著しく、1998年と比べると6千床近く減少している。精神科病院では、横ばいとなっている。</p> <p>一方で、諸外国では(各国における精神病床の定義の違いを考慮する必要があるが)、1960年代以降、一様に病床削減や地域生活支援体制の強化等の施策を通じて人口当たり病床数を減少させてきている。</p> <p>②精神科または神経科を標榜する診療所数の推移をみると、一般診療所数も近年増加の一途をたどっているが、精神科または神経科を標榜する診療所の増加はそれを大きく上回る勢いで増加しており、1996年から2005年までの間で、ほぼ1.5倍に増加している。</p> <p>③精神科医は、全体として増加傾向にあるが、精神科または神経科を標榜する診療所数の増加の影響もあって、診療所に勤務する精神科医も増加が顕著である。1994年と2006年の比較で見ると、病院に勤務する精神科医の増加が15%であるが、診療所に勤務する精神科医は2.3倍に増加している。</p>	【2】国民の理解の深化(普及啓発)の現状	<p>①「精神保健医療福祉の改革ビジョン」においては、「精神疾患は生活習慣病と同じく誰もがかかりうる病気であることについての認知度を90%以上とする」という達成目標を掲げているが、2006年度時点では、「精神疾患は誰もがかりうる病気である」との質問に対し、「そう思う」と答えた者の割合が50%弱、「ややそう思う」と答えた者を合わせると約82%に上っており、ビジョンに掲げた目標の達成に向け一定の進捗がみられている。一方で、精神疾患に関する国民の理解について、疾患毎にその理解の状況を見ると、うつ病等他の疾患に比べて、統合失調症に対する理解が大きく遅れている。</p> <p>②また、2007年の内閣府調査によると、「精神障害者の近隣への転居」について、ドイツやアメリカでは、7割以上が「意識せず接する」と回答し、4割は「全く意識せず気軽に接する」と回答しているのに対し、日本では、7割以上が「意識</p>
【1】精神保健医療体制の現状	<p>①精神病床数は、1998年以降、減少傾向が続いているが、ほぼ横ばいとなっている。病院類型で見ると、特に、一般病院での減少が著しく、1998年と比べると6千床近く減少している。精神科病院では、横ばいとなっている。</p> <p>一方で、諸外国では(各国における精神病床の定義の違いを考慮する必要があるが)、1960年代以降、一様に病床削減や地域生活支援体制の強化等の施策を通じて人口当たり病床数を減少させてきている。</p> <p>②精神科または神経科を標榜する診療所数の推移をみると、一般診療所数も近年増加の一途をたどっているが、精神科または神経科を標榜する診療所の増加はそれを大きく上回る勢いで増加しており、1996年から2005年までの間で、ほぼ1.5倍に増加している。</p> <p>③精神科医は、全体として増加傾向にあるが、精神科または神経科を標榜する診療所数の増加の影響もあって、診療所に勤務する精神科医も増加が顕著である。1994年と2006年の比較で見ると、病院に勤務する精神科医の増加が15%であるが、診療所に勤務する精神科医は2.3倍に増加している。</p>				
【2】国民の理解の深化(普及啓発)の現状	<p>①「精神保健医療福祉の改革ビジョン」においては、「精神疾患は生活習慣病と同じく誰もがかかりうる病気であることについての認知度を90%以上とする」という達成目標を掲げているが、2006年度時点では、「精神疾患は誰もがかりうる病気である」との質問に対し、「そう思う」と答えた者の割合が50%弱、「ややそう思う」と答えた者を合わせると約82%に上っており、ビジョンに掲げた目標の達成に向け一定の進捗がみられている。一方で、精神疾患に関する国民の理解について、疾患毎にその理解の状況を見ると、うつ病等他の疾患に比べて、統合失調症に対する理解が大きく遅れている。</p> <p>②また、2007年の内閣府調査によると、「精神障害者の近隣への転居」について、ドイツやアメリカでは、7割以上が「意識せず接する」と回答し、4割は「全く意識せず気軽に接する」と回答しているのに対し、日本では、7割以上が「意識</p>				

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2008 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

		する」と回答しており, 精神障害や精神障害者に対する理解が十分に進んでいないことを示している。その他の調査研究においても, 同様に, 日本における精神障害者に対する偏見の根強さが明らかとされている。
--	--	---

(注)「問題 68 2005 年患者調査」に基づいて精神障害者の現状について述べよ。」「問題 69 精神障害者の地域生活支援(障害福祉サービス, 医療サービス, 雇用支援)の現状と問題点・課題について述べよ。」を参照のこと。